

在宅医療・介護多職種連携協議会

啓発・広報部会

～報告～

部会の目的

在宅医療・介護に係る市民啓発について検討する。

- 市民啓発推進の検討
- 在宅医療情報紙「わがや」の発行
- その他，在宅医療に関する啓発関係の検討

**目指す姿：ひとりでも多くの市民が人生の最終段階の暮らし方について
近しい人と日頃から繰り返し話し合っている状態**

部会内容

第3回部会

参集形式
(令和8年1月30日)

報告 在宅医療情報紙「わがや」について
在宅医療出前講座について
啓発イベント「ピア上映会」について
その他（広報かしわ関連）

議事 啓発・広報部会の中期活動活動を立てよう（意見交換）
意識調査結果を基に，認知度等向上のため何を優先すべきかを考える

報告（1） | 在宅医療情報紙「わがや」

わがや26号（令和8年3月1日発行号）では

多職種連携をキーワードに、**柏の在宅医療**に対する取り組みを紹介

表面

柏市在宅医療情報紙 令和8(2026)年 3月1日発行 Vol.26 バックナンバー

発行：柏市在宅医療・介護多職種連携協議会 発行・印刷部 編集：柏市地域医療連携推進 制作：白土社 9月・3月・2月発行

柏市の在宅医療 過去・現在・未来

2025年には、団塊の世代がすべて75歳以上の後期高齢者となり、高齢化と少子化の進行により、医療や介護が十分に受けられなくなるのではないかと懸念されてきました。これが「2025年問題」です。こうした状況を見据え、柏市では2010年から、全国に先駆けて「柏プロジェクト」を開始しました。今号では、在宅医療に関する柏市ならではの取り組みを紹介します！

2010年

おばあちゃんが病院に行けなくなった...
なるべく住み慣れた場所で最期まで過ごしたいけど難しいかな...
私が看護士一人になってもお家で看護できるか心配だわ

そして2025年...

安心して！
たくさんの人がチームになって
柏市の医療・介護を支えています

キーワードは
『多職種連携』だよ！

柏市の取り組みの特徴は「多職種連携」。医療・介護の多職種が「ひとつのチーム」として連携する体制のことです。様々な職種の人々が協力しあうことで、医療・介護を受ける方をスムーズにサポートでき、2010年に言われていたような不安や問題の解決にもつながっています。

PDF版のバックナンバーは、柏市公式ホームページから「わがや」タブ、タイトル名のQRコードからダウンロードできます。*QRコードは印刷の都合により縮小されています。

裏面

在宅医療情報紙 わがや 第26号（令和8(2026)年3月1日）

こんな人たちが在宅医療を支えています！

表面でご紹介したように、在宅医療を利用するには様々な専門職が関わり、病気の治療や療養生活のサポートなどをしています。

医師 定期訪問でからだの状態を診察・治療します。	薬剤師 処方された薬を届け、服用方法や効果の確認をします。	歯科医師・歯科衛生士 歯の診療やお口のケアを行い、しっかりと食べられるよう支援します。
訪問看護師 医師の指示のもと、治療や療養の支援を行います。	リハビリ師 移動や食事など、生活に必要な動作のための様々なリハビリを行います。	管理栄養士 医師の指示のもと、栄養管理や食事の支援を行い、食べる楽しさをお手伝いします。
ヘルパー 食事や排泄、入浴の介助などを行い、療養生活を支えます。	ケアマネジャー 医師の指示とケアの計画を立て、各医療者と連携調整をします。	この他にもたくさんの専門職が連携をすすめています。

顔の見える関係会議

『多職種連携』を進める取り組みの一つとして、柏市では「顔の見える関係会議」を行っています。医療・介護に関わる多職種が集まり、より良いチームワークを目指すため、お互い知り理解を深めることを目的としています。

会議を通して「顔の見える関係」を築くことで、専門職により良い様々な課題の解決について考えることができ、患者さんやご家族が安心して「わがや」で療養できるよう取り組んでいます。

柏の在宅医療を支える医師として

在宅医療・介護を受ける患者さんにとって、**かかりつけ多職種**が欠かせないことは安心感を与えます。柏市で2025年問題への対策として開始した在宅医療・介護を推進する「柏プロジェクト（柏セブ）」のスタートから15年、はかの自治体にも先駆けて培ってきた医療・介護連携の力として「顔の見える関係会議」は多職種関係者にとって重要な役割を果たしています。患者さんのためにも、これからさらに在宅医療や介護に関わる多職種の協力には、ぜひ会議に参加してほしいです。

柏市医師会 石橋正樹さん

これから柏の暮らしが安心であるように...

2040年には高齢者人口がピークを迎えると言われていて、在宅医療や介護の需要が増える中、医療・介護に関する人材が不足する可能性が高くなります。そのような状況においても、高齢者だけでなく、より高度で専門的な知識が求められる障害者や療育のケアを必要とする子ども、この先も充実した在宅医療を受けられるよう、新たなモデルの検討も進めています。

皆さんが住み慣れた「わがや」で安心して暮らせるための「連携体制の進化」にぜひ注目ください。

これからも住み慣れた「わがや」で暮らしを大切にしてください！

柏に住んでいてよかった！

柏市医師会・市立大学・柏市の三者で協定を結び、柏の在宅医療をより良くするために、話し合いを重ねています。

わがやクイズ！

【問題】
〇に入る数字1文字は？

「多職種連携」を進める取り組みの一つ

クイズの答え方法
柏市のホームページから、①～④の回答を回答し、ご応募ください。
【締切】令和8年4月30日（木）

① クイズの答え
② 多職種連携に関するアンケート
③ 「わがや」で取り上げて欲しいテーマ
④ わがやの感想
⑤ 氏名・住所・年齢

応募カードを500枚以上プレゼント！

※応募の人数・応募の回数によって抽選となります。

わがやに関するお問い合わせ先 柏市地域医療連携 TEL: 04-7197-1510

バックナンバーは柏市公式ホームページから

- ◆ 柏の取り組みを知ってもらい、医療や介護に不安を抱える市民が、安心して暮らせる地域だと感じてもらえるよう作成
- ◆ 在宅医療を支える多職種をイラスト付きで紹介
- ◆ 柏の取り組みとして、**顔の見える関係会議**、**柏プロジェクト**、**柏地域医療連携センター**等を紹介



前号に引き続き、全町会長宛てに発行案内及び配布・回覧等の協力依頼をしました

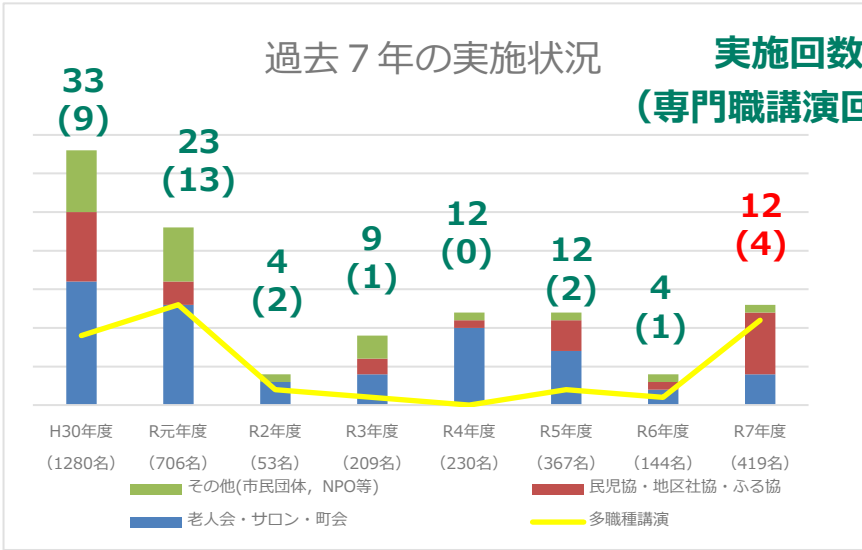
報告（2） | 在宅医療出前講座

◆ R7年度申込・実施状況

令和8年2月26日時点

対象	申込件数 () 内は実施済回数	専門職の 講演回数 * 予定分含む	参加人数 * 延数
老人会・サロン・町会など	4 (4)	1	75
民児協・地区社協・ふる協	8 (7)	3	332
その他（市民団体，NPO等）	1 (1)	0	12
合計	13 (12)	4	419

訪問看護師3名，
ケアマネジャー1名に
ご協力いただきました！



- サロン等に周知した結果，現時点で前年度を大きく上回る件数の申し込みがあった
- 後述の「ピア上映会」を含め，多くの方へ啓発する機会を確保（コロナ禍以降では最多の参加人数）

※R7年度の参加者数は，
実施済（計12回分）の人数

報告（3） | 映画ピア～まちをつなぐもの～特別上映会 実施報告①



○開催概要

日時：令和8年1月25日（日）14時～16時15分（13時30分開場）

場所：アミュゼ柏 クリスタルホール

目的：在宅医療を知ってもらい、考えるきっかけとなるよう実施するもの

内容：上映&セッションとし、専門職による講話やパネル展示を実施

人数：260名

○映画概要

若手医師が悩みながらも懸命に在宅医療という高齢化社会の大きな課題に取り組んでいくという感動の物語。

地域で生きるとは？在宅医療と介護，看取りを通して、働くことの意味，人與人，夫婦（家族），地域との繋がりやの尊さを描く。笑って泣けて、人生に前向きになれる心温まる感動作。

○当日の展示内容

- ・在宅医療ロゴがデザインされたエコバッグ配布
- ・訪問バッグの中身展示
- ・歴代わがやの展示
- ・日本在宅医療連合学会大会のパネル展示
- ・望みノート，各種啓発冊子等の配布
- ・柏の在宅医療解説動画の投影



啓発用エコバッグ

報告（3） | 映画ピア～まちをつなぐもの～特別上映会 実施報告②

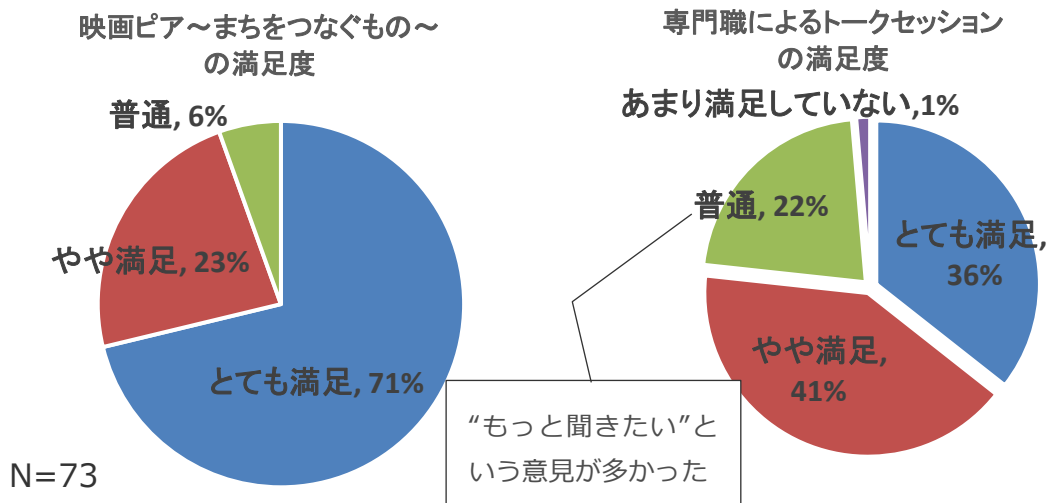
○当日の様子



- ・トークセッションでは、日頃から在宅医療の現場に携わる専門職が登壇
- ・映画の内容と実際の現場をリンクさせながら、現場の生の声をお届けしました

※左から櫻庭副部長（ケアマネジャー）、石橋部長（医師）、平部会員（訪問看護師）

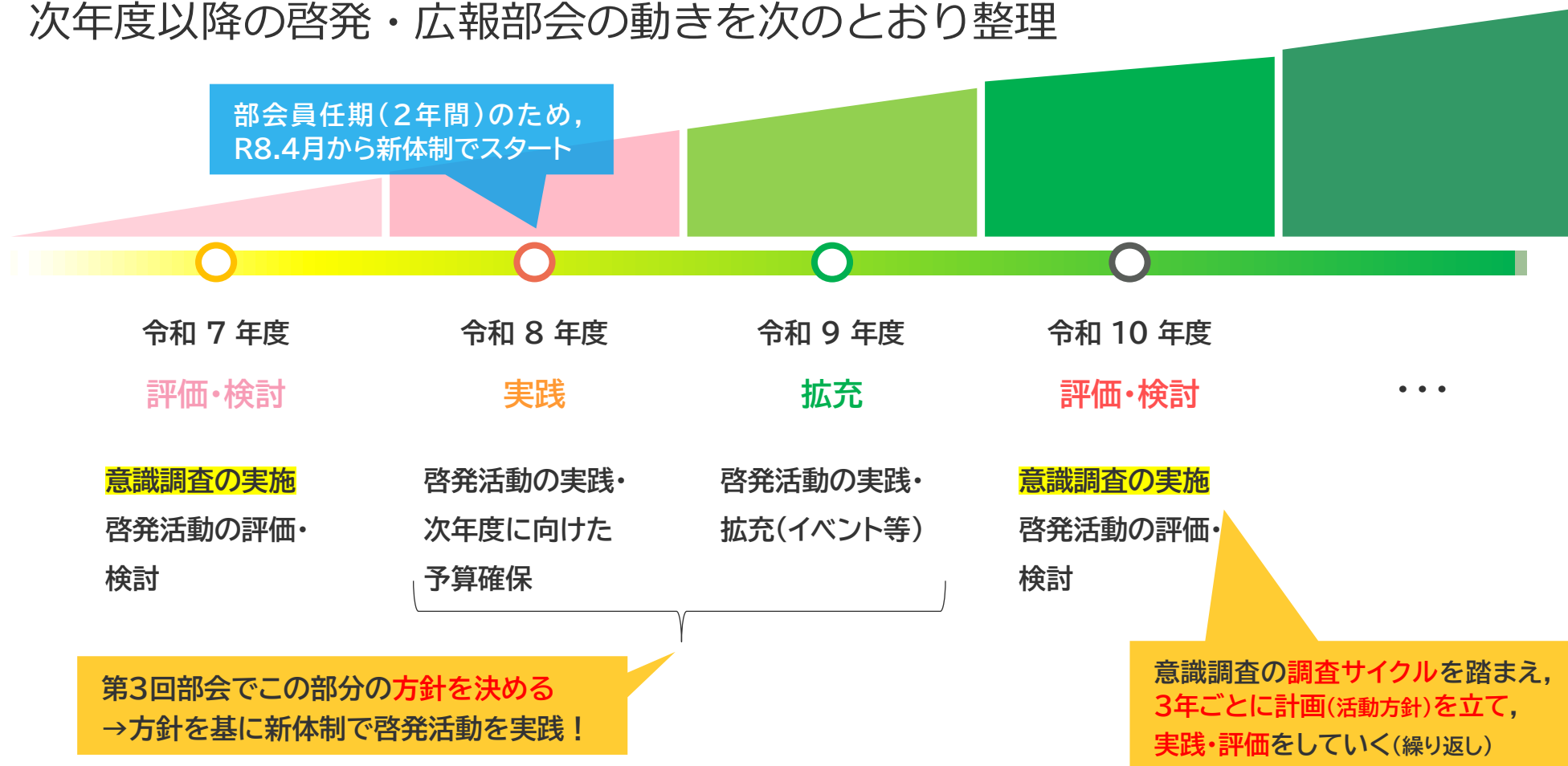
○参加者アンケート



- 9割以上の方が「在宅医療の大切さを知った」, 「在宅医療をもっと知りたいと思った」と回答
- 自由記述では, 「柏が在宅医療の先駆けで頑張っていることを初めて知って嬉しくなった」, 「介護や在宅医療について考えていくきっかけになった」, 「映画もちろん良かったが、柏市の取り組みを知ったことが一番印象に残った」といったご感想をいただきました

議事 | 「啓発・広報部会の中期活動計画を立てよう」

次年度以降の啓発・広報部会の動きを次のとおり整理



以上を踏まえて

『意識調査の結果を基に、認知度等向上のために何を優先して実施していくべきかを考える』
というテーマで意見交換を実施

議事 | 意見交換で議論された内容（一部抜粋）

【問い】 意識調査結果の数値向上のために、優先すべきことは何か

■「わがや」に関すること

- 特定健診や75歳以上健診，がん検診などの健診票を送付する際に，一緒に「わがや」を送付する（ACPを特集した号などを同封することで親和性があるのではないか）
- 生命保険会社に協力を依頼する（成年後見制度について社協が連携している実績あり）

■出前講座に関すること

- 参加者に対して，参加証として啓発品等を配布（参加者を通じて多くの人に知ってもらう）
- 民生委員向けの出前講座を実施した経験から，民生委員に対する啓発活動をする（意外と民生委員でも知ってもらえていない）
- 回数を増やすため，民児協やふる協，地区社協などに出向いてPR
- 専門職の講座回数を増やすため，様々な職種が誰でも対応できるよう，講義資料をパッケージ化するなどの体制を作る

■その他（啓発全般）

- ACPの啓発は全世代に必要なだが，調査結果からメインターゲット層に認知されていない現状から，特に高齢の方を最優先に情報提供できる仕組みづくりが必要
- 相談場所として「地域包括支援センター」を認識している市民が多いことから，認知度向上のためには地域包括支援センターを活用（窓口で手渡し配布の協力依頼をする等）
- 幅広い年齢層にアプローチするため，デジタルサイネージを活用（ワニバース等で放映，クイズ形式にする等）

今後の予定

令和8年度の予定

項目	2026年									2027年				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
部会		第1回				第2回				第3回				
わがや	27号（テーマ：ACP）作成					9/1 発行		28号（テーマ：未定）作成					3/1 発行	
出前講座	依頼に応じて随時実施													

次年度以降の啓発イベントについて
検討（必要に応じて予算確保）